複式学級の特質を生かした小学校家庭科の指導について

伊藤雅子*，石橋和子**
*岩手大学教育学部附属小学校，**岩手大学教育学部家政科

（令和３年３月４日受理）

１　はじめに

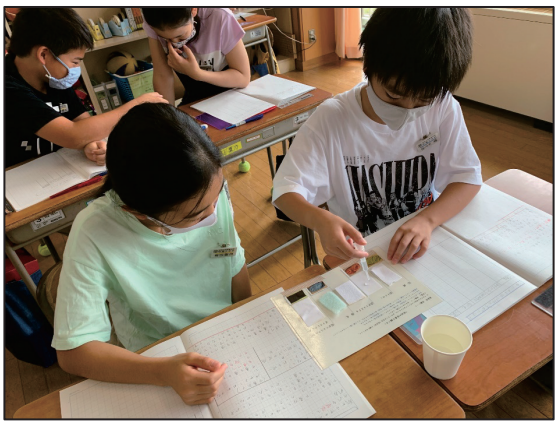
岩手県では，３０％近い小学校が複式学級を有している。複数学年の児童を同時に指導していくため，直接指導の時間が短く学習内容の組み合わせや指導方法を工夫する必要がある。特に家庭科は，５年生から学習が始まるため，５年生と６年生で知識や技能の差が出やすかったり，内容項目によっては同内容の指導が難しかったりする。

そこで本研究では，複式学級の特質を生かした小学校家庭科の指導の在り方について研究を行った。

２　方　法

複式学級の特質を生かした家庭科教育の学習について，授業実践を中心に以下の３つに重点を置いて研究を進めた。

（１）複式学級の特質を生かした指導
（２）指導内容の組み合わせ
（３）複式学級における家庭科の題材開発



３　結　果

（１）複式学級の特質を生かした指導

複式学級の特質は大きく３つある。

①少人数であること
②複数学年の集団であること
③児童同士が協力関係を築きやすいこと

これらの特質により次のような指導が可能になる。

①少人数であることを生かした指導

複式学級は学級の人数が少ない。そのため，児童と教師が関わったり児童同士が関わったりする時間や場面を多くもつことができる。また，少ない人数で教材・教具を使用することができるので，実践的・体験的な学習活動を充実しやすくなる。

②複数学年の集団であることを生かした指導

複式学級では，一つの学級の中で上学年と下学年が共に学んだり生活したりしている。そのため，上学年がリーダーシップを発揮しやすい環境である。上学年が下学年をリードするような活動を取り入れることで，互いに力を高め合うことができる。

③児童同士が協力関係を築きやすいことを生かした指導

複式学級は学級の人数が少ないため，児童同士がコミュニケーションをとりやすく，互いの協力関係も築きやすい。そのため，自分の考えを相手に話しやすくなるため，話し合

いの活動やグループでの活動がより活発になり，学びを広げたり深めたりしやすくなる。

（２）指導内容の組み合わせ

複式学級では，以下のように指導内容の組み合わせを行っている。

○学年別指導 それぞれの学年の教科，同じ教科でも異なる内容を指導する。 ○同題材指導 それぞれの学年における類似の内容を組み合わせたり，同一の内容を選んだりして指導する。

小学校家庭科における内容項目は「Ａ　家族・家庭生活」，「Ｂ　衣食住の生活」，「Ｃ　消費生活・環境」の３つに大きく分けられる。このうちＢの衣食の生活では，調理や製作の実習を伴うため，異学年で類似の題材を組み合わせる学年別指導が望ましい。それ以外は，異学年で同じ内容を指導する同題材指導を行うことが可能である。以下に内容項目による指導内容の組み合わせを示す。（・は開隆堂出版「わたしたちの家庭科」の題材名）

Ａ　家族・家庭生活（同題材指導が可能）

・家族の時間再発見
・できるよ、家庭の仕事
・いっしょにほっとタイム
・生活時間をマネジメント
・共に生きる地域での生活

Ｂ　衣食住の生活 →衣の生活の一部と食の生活 （学年別指導が望ましい）

【５年生】
・クッキングはじめの一歩
・ソーイングはじめの一歩
・ミシンでソーイング
・食べて元気に

【６年生】
・できることを増やしてクッキング
・生活を豊かにソーイング
・こんだてを工夫して

Ｂ　衣食住の生活 →衣の生活の一部と住の生活 （同題材指導が可能）

・暖かく快適に過ごす着方
・暖かく快適に過ごす住まい方
・すずしく快適に過ごす着方と手入れ
・すずしく快適に過ごす住まい方

Ｃ　消費生活・環境（同題材指導が可能）

・整理・整とんで快適に
・生活を支えるお金と物
・クリーン大作戦
・持続可能な社会を生きる

（３）複式学級における家庭科の題材開発

複式学級の特質を生かした指導と指導内容の組み合わせを取り入れた，家庭科の題材開発を行った。

【題材１】
「もっと仲良し！たてわり活動！！
～おそろいワッペン作りに挑戦～」

本題材は，学年別指導で行った。指導内容はどちらの学年も「Ｂ　衣食住の生活」であるが，５年生は「糸通し，玉結び，玉止め，なみ縫い」，６年生は「返し縫い」を身につけ

ることを，知識及び技能の目標とした。それぞれの学年の目標を達成するために次の手立てをとった。

①題材設定の工夫

題材を「たてわり活動で楽しい雰囲気を作り出すおそろいのワッペン作り」とした。５年生と６年生で別々の物を製作するのではなく，共通の活動であるたてわり活動で使用するワッペンを一緒に製作することで，目的を共有したり学習意欲を高めたりすることができると考えた。

②指導計画の工夫

指導計画を以下のように立てた。

時数	学習内容（⑤は５年生，⑥は６年生）
1	⑤・⑥共通 たけのこタイムにどんな物があると良いか考え，学習の見通しをもつ。
2・3	⑤　「糸通し」「玉結び・玉止め」をする。 ⑥　「糸通し」「玉結び・玉止め」のコツを５年生に伝える。
4	⑤　「なみ縫い」をする。 ⑥　「返し縫い」をする。
5	⑤・⑥共通　製作計画を立てる。
6～8	⑤・⑥共通　ワッペンを製作する。 ※６年生が「返し縫い」で名前や模様を縫いとり，５年生が周りを「なみ縫い」する。
課外	⑤・⑥共通 ワッペンをプレゼントする。
9	⑤・⑥共通　学習を振り返る。

２・３時間目は，５年生が初めての製作に必要な技能を身につける時間である。前半は教師から「糸通し」「玉結び・玉止め」の方法を指導した。後半は５年生と６年生をペアにさせ，６年生から５年生にコツを教えたり一緒に練習をしたりできるようにした。

４時間目は，５年生も６年生も，新しく「なみ縫い」と「返し縫い」の技能を身につける時間である。前半は教師が５年生になみ縫いの方法を，後半は教師が６年生に返し縫いの方法を直接指導した。間接指導の間は，同学年同士で教え合いながらそれぞれの縫い方を練習した。

２～４時間目に身につけた技能を生かし，６～８時間目にワッペン作りを行った。５年生は，なみ縫いでの布の縫い合わせ，さし針での名前の縫いとりを担当した。６年生は，本返し縫いを用いての名前の縫い取りや模様付けを担当した。

【題材２】

「持続可能な社会を生きる

～今、自分にできること～」

本題材は同題材指導で行った。指導内容はどちらの学年も「Ｃ　消費生活・環境」である。この題材は，本校で使用している教科書の題材配列だと６年生の学習内容に当たるため，５年生にとっては学習に少し困難さが生じると考え，次の手立てをとった。

①活動の対象の工夫

まず，本題材の流れは以下の通りである。

時数	学習内容
1	物や電気・ガス・水の使い方などについて問題を見いだす。
課外	生活の中で環境に関わる問題が他にもないか調べる。
2	環境に配慮した生活について，「持続可能な社会の構築」の視点から課題を設定する。
3	解決方法を調べ，実践①の計画を作成する。
課外	家庭実践①
4	それぞれの実践を発表し合い，実践②に向けて計画を改善する。
課外	家庭実践②
5	これまでの学習や実践を振り返り，自分の生活と身近な環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解する。

この流れで５年生と６年生が一緒に学習していく。しかし，日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し，様々な解決方法を考え，計画を立てて実践した結果を評価・改善し，考えたことを表現することは，５年生には少し難しいと感じた。そこで，日常生活の対象を，５年生は「学校生活」，６年生は「家庭生活」とした。５年生の活動の対象を狭くすることで，６年生の学習内容に当たっていても一緒に学習できるようにした。

②学習形態の工夫

普段は，５年生と６年生が混ざった状態で班を組み，授業を受けている。しかし，今回は活動の対象を学年によって変えたため，班の編成も同学年同士とした。また，５年生は班で一緒に活動を進めていくのに対し，６年生は個人で活動を進めた。これは，家庭実践を５年生は学校で，６年生は自分の家庭で行うためである。

４　考察

（１）　複式学級の特質を生かした指導について

複式学級で家庭科を指導する際，５年生と６年生では学びに１年間の差があるため，特に知識及び技能の習得に困難さが生じると考えていた。

しかし，複式学級の特質を生かした指導を行ったことで，５年生は教師からの指導だけではなく，６年生からの指導も受けることができた。特に，布を用いた製作では，６年生が５年生にマンツーマンで縫い方などを教えることで，５年生は技能をスムーズに習得することができた。また，６年生は５年生へ教えることで，相手意識をもったりきれいに仕

上げるコツは何かを考えたりすることにより，今までの学びをより確かなものにすることができていた。

（２）指導内容の組み合わせについて

家庭科の２年間の題材を，複式学級における指導内容の組み合わせで分類していくと，以下のように分けることができた。

○学年別指導が望ましい内容項目
B　衣食住の生活
→衣の生活の一部と食の生活
○同題材指導が可能な内容項目
A　家族・家庭生活
B　衣食住の生活
→衣の生活の一部と住の生活
C　消費生活・環境（同題材指導が可能）

ただし，学年別指導が望ましい内容項目でも，６年生が５年生に知識や技能を教える場面の設定は可能である。また，同題材指導が可能な内容項目においては，２年間で指導の漏れがないように配慮したり，５年生と６年生で評価の仕方を工夫したりする必要がある。

（３）　複式学級における家庭科の題材開発について

【題材①（学年別指導）について】

題材を「たてわり活動で楽しい雰囲気を作り出すおそろいのワッペン作り」とした。たてわり活動という５・６年生共通の経験があることにより，目的を共有したり学習意欲を高めたりすることができた。その結果，学習の中で自然と教え合う姿が見られたり，協力して活動したりする姿が多く見られた。

次に，身に付けさせる知識及び技能を，５年生はなみ縫い，６年生は返し縫いと明確にした。前半は５年生が直接指導でなみ縫いの仕方を学び，その間６年生は間接指導で５年生までで学習したなみ縫いを復習する。この時，６年生でなみ縫いを忘れたりなみ縫いが苦手な児童は，５年生の直接指導を聞きながらなみ縫いを想起することができる。後半は６年生が直接指導で返し縫いの仕方を学び，その間５年生は間接指導でなみ縫いの練習をする。このような題材構成・授業構成にすることで，効率的になみ縫いと返し縫いを身に付けさせることができた。また，身に付けた技能を使って，５・６年生が１つの作品を仕上げるというのも，技能の習得に必然性をもたせる一助となった。

この他にも，６年生は５年生になみ縫いの仕方を教えることで，自分の知識及び技能を確かなものにしたり，教えることを通して上手く縫うにはどうすれば良いか考えたりすることができた。また，５年生の何人かは６年生の返し縫いにも挑戦し発展的に学習するなど，題材構成を工夫したことで複式学級の良さを生かしながら学ぶことができた。

【題材②（同題材指導）について】

本題材は，本校で使用している教科書の題材配列だと６年生の学習内容に当たる。そのため，５年生にとっては学習に少し困難さが生じると考え，生活の対象を５年生は「学校生活」，６年生は「家庭生活」とした。５年生の生活の対象を狭くしたことで，実際の生活をイメージしやすく，調査活動や実践活動も行いやすくなった。また，５年生はグループでも活動をメインに，６年生は個人での活動をメインにしたことも，５年生にとっての学習の困難さを解消する一助となった。教師にとっても，学習内容が同じで生活の対象だけが違うため，教材研究を行いやすかった。

授業や題材の最後には，５年生と６年生で学んだことを交流する場面を設けた。今回の題材で，５年生は生活を狭い範囲で見つめることで生活に対する気付きが深くなった。逆に６年生は生活を広い範囲で見つめることで生活に対する気付きが多くなった。そして，それぞれの気付きを交流することで，自分にはなかった新たな生活の見方を知ったり，気付きを広めたりすることができた。複数学年の集団であるからこその学びであると感じた。

５　まとめ

本研究を通して，次のことが明らかになった。

・複式学級の特質を生かした指導を行うことで，それぞれの学年の学びをより広めたり深めたりすることが可能となる。
・学習内容を，複式学級における指導内容の組み合わせで分類することで，学年別指導が望ましい題材と同題材内容が可能な題材が明らかになる。
・題材の組み合わせ方や学習内容，学習形態等を工夫することにより，複式学級の良さを生かしたり教科のねらいを達成したりすることができる。また，教師の負担も少なくすることができる。

謝辞

本研究を行うにあたり，多くの方々にご支援いただきました。本研究のためにご協力いただきました皆様に心から感謝いたします。

また，授業にいつも熱心に取り組んでいた子供たちに心から感謝いたします。

引用文献

・小学校家庭科学習指導要領（平成２９年告示）解説　家庭編
・令和２年度　岩手大学教育学部附属小学校学校公開研究会　指導案集
・複式学級の特質を生かした学習指導の進め方ガイド（平成２６年　岩手県立総合教育センター）